

別記様式(第5条関係)

会 議 録

会 議 の 名 称		平成29年度第3回福津市総合教育会議
開 催 日 時		平成30年1月18日(木) 午前10時45分から 午後 0時23分まで
開 催 場 所		福津市役所 別館2階大ホール
委 員 名		(1) 出席委員 原崎市長、柴田教育長、下山委員、笠置委員、 藤井委員、青木委員 (2) 欠席委員
所 管 課 職 員 職 氏 名		松田副市長、大賀総務部長、高橋健康福祉部長、徳永市民部長、永島地域振興部長、福嶋都市整備部長、井上総務部理事、石井郷づくり支援課係長、川崎広報秘書課長、溝辺教育部長、池田教育総務課長、増田学校教育課長、安武郷育推進課長、花田文化財課長、吉住参事兼主任指導主事、森指導主事兼教育指導係長、長友総務企画係長
会 議 議	議 題 (内 容)	・国際交流・グローバル人材の育成について ・環境保全を進めるための人材育成について
	公開・非公開の別	☒ 公開 ☐ 非公開 ☐ 一部公開
	非 公 開 の 理 由	
	傍 聴 者 の 数	なし
	資 料 の 名 称	
会 議 録 の 作 成 方 針		☐ 録音テープを使用した全文記録
		☒ 録音テープを使用した要点記録
		☐ 要点記録
会 議 録 署 名 委 員		
そ の 他 の 必 要 事 項		
審議内容 (発言者、発言内容、審議経過、結論等)		

1 開会の宣言

川崎：定刻になりましたので、ただいまから平成29年度第3回福津市総合教育会議を開会いたします。私は本日の司会進行を務める福津市広報秘書課の川崎です。よろしくお願いいたします。

本日の会議は、お手元にお配りしております会議次第に沿って進めていきます。会議出席のメンバーにつきましては、次第及び席次表のとおりですので、執行部の自己紹介は省かせていただきますが、副市長が就任後初の会議ですので、副市長から一言御挨拶をお願いします。

副市長：初めまして。12月13日に就任しました松田美幸です。どうぞよろしくお願いいたします。私は、実は大学は教育学部出身で、いろいろなところで教育の分野にかかわってきましたが、この福津にまいりまして、本当に地域の皆さんにお子さんたちが育てられているというのを実感しているところで、本当に皆さま方の日々の努力のおかげだと思っております。今日のテーマを見たら、グローバル人材の育成ということで、こちらも私の大好きな分野なので、ぜひ御一緒に力を合わせて未来の子どもたちを育てていけたらと思いますので、どうぞよろしくお願いいたします。

2 挨拶

川崎：まずはじめに、原崎市長が御挨拶を申し上げます。

市長：教育委員の皆さん、こんにちは。本日もどうぞよろしくお願いいたします。

本日が平成29年度第3回目です。7月25日、10月24日に続き、今日が本年度最後ということであります。

7月25日の討論では、議会の場でまちづくり指針の所信表明で確認をさせていただいたことを踏まえて、「特にこの点を強調して教育総合計画に生かしてほしい」というものを要望させていただいたところです。教育大綱の冒頭部分でも、今日の協議のまさに議題になっておりますが、「国際交流」「環境保全」「対話」の柱で書かせていただきました。計画策定のプロセスはもとより計画策定後も、対話の手法をしっかりと踏まえた検証を行っていただきたいという議論もありました。

具体的なテーマとしては、その教育の中でも、本当にいろいろなケアをしていかなければならない分野がありますが、特に世界遺産についても、本市の教育計画にはぜひとも、グローバル人材の育成や国際交流の面も踏まえて入れていただきたいと思います。福津市は現在、人口も増えており、対外的な経済評価も受けています。

うみがめ課が担当になっておりますが、本市が今年度から策定いたしました第2次福津市環境基本計画というのもあります。

ので、子どもの教育だけでなく、生涯を通して福津市全体で豊かな自然を守っていくことも、教育総合計画に盛り込んでほしいとお願いしたところです。

本日は、この2つの項目について協議していただくことになっております。有意義な時間となりますように思っておりますので、何とぞよろしくお願い申し上げます。

川崎：本日の協議日程ですが、会議次第をご覧ください。前回までの会議では教育大綱をまとめ上げました。そして、福津市総合計画策定に係る市民アンケート及び中学生アンケート結果からみえる課題と題して、現時点で見える教育関連施策の課題や改善の方向性などについて意見交換を行いました。今回は、教育大綱の基本目標から、中長期的なテーマの2点に絞って、具体化に向けての意見交換を行いたいと思います。そして、この会議で教育委員会部局と市長部局との連携を図り、教育大綱の新たな施策展開のための協議の場としたいと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。

3 協議 ①国際交流・グローバル人材の育成について

川崎：今から協議事項に入ります。協議における司会は市長にお願いしたいと思っておりますので、市長、よろしくお願いいたします。

市長：冒頭の挨拶でも申しましたように、本日は次の2点の課題について、現状や本市の取組を踏まえて、課題解決や制度化に向けて協議したいと思っております。

まずは、テーマ①「国際交流・グローバル人材の育成について」です。次にテーマ②「環境保全を進めるための人材育成について」。これらのテーマについて、教育委員の皆さんが日ごろから考えておられるご意見を出していただき、もし質問があれば、必要に応じて担当部署から答えていきたいと思っております。またこの意見交換が終わった後、教育長、そして副市長からも全体を通しての感想あるいは意見を出していただき、最後に私がまとめをさせていただきたいと思っております。12時終了を予定しております。

それでは、①「国際交流・グローバル人材の育成について」ということで協議に入ります。

前回の総合教育会議では、福津市の教育大綱について協議していただきました。ようやく完成の段階にきました。本日は関係部署も以前より多く参加しております。本日は教育大綱の9つの基本目標の中から、国際交流・グローバル人材の育成をテーマに絞って皆さんと協議を進めてまいります。

国際交流については、私もこれからの時代を担う子どもたちに大きな影響を与えるのではないかと考えておりますし、福津市に多くの外国籍の方々が住んでいる現状があります。活気あ

るまちとなるために、ぜひ、国際交流を進めていただきたいと考えておりますが、教育委員の皆さんは、どのようにお考えでしょうか。ご意見をよろしくお願いします。

青木委員：福津市は昨年、新原・奴山古墳群が世界遺産に登録されましたが、以来、マスコミ等でもよく報道されるようになっていきます。市内外への情報発信については、どのような取組を考えているのかお尋ねします。

市長：青木委員の質問は、市内外への世界遺産の発信についてです。担当課の花田文化財課長、よろしくお願いします。

文化財課長：世界遺産に登録されて以来、国内外からお見えになっておりますが、さらにたくさんの方がお越しいただけるように、県の観光局と連携して、観光誘客に向けた効果的な情報発信を行っているところです。具体的には、旅行会社へ訪問して、構成資産や観光情報などを提供したり、インバウンド向けの旅行商品の調整を促進しています。また、県の世界遺産部局と連携して、東京や京都などでシンポジウムを開催し、構成資産の価値を伝えていくことに努めています。また、市民向けの発信として、ホームページ、広報誌及びパンフレット等などを通じ、資産価値を理解していただく取組を行っていますが、今後も継続して実施していきたいと考えています。

未来へつなぐ担い手である子どもたちに、この資産のあるまちに住んでいることに誇りを持ち、愛し、未来につなげていきたいと考えてくれるような取組が重要であると考えています。現在でもすでに学校で世界遺産関係の講座を開くなどのお手伝いもしています。また、世界遺産学習のための副読本の作成なども進んでいます。

それ以外の取組としては、受け入れ体制を充実させ、円滑かつ効果的に資産価値を伝えるために、昭和学園の前にある視点場の整備など、さまざまな取組を行っているところです。

本日のテーマである国際交流の観点から言えば、直接的関係はないかもしれませんが、インバウンド対策として、多言語対応の一環で、英語、中国語、韓国語のパンフレットの作成、ウェブサイトの整備及び展示施設におけるQRコードの活用などの取組を進めています。

課題としては現在、現場で観光ボランティアが観光案内に従事しているところですが、現在のスタッフでは多国語での対応が難しいと思っています。別の世界遺産のところで、小学生がボランティア活動を行っていたことをテレビで見たことがあります。素晴らしいことだと思っています。本市でも、そういった面で、子どもたちを育成して活用できる場を提供していくことも、今後考えていく必要があるのではないかと考えています。以上です。

市長：再質問があればどうぞ。

青木委員：市内の子どもたちの取組がなされているという報告がありましたが、われわれ大人も、世界遺産についてもっと学ばなければならないのではないかと思います。私も地元に住んでいますが、せっかく地元が世界遺産に登録されたので、海外からの訪問客と、いい国際交流のチャンスになるのではないかと思います。また、来訪者と話をした時、またここに来るかどうかは分からないという意見もありましたし、道路やトイレ、休憩所等のインフラ整備から、お土産店でもあったらいいのではないかと思いますので、参考にいただければと思っています。以上です。

市長：今日は各担当部署の職員もおりますので、委員さんが言われたことについて、意見等があればお願いします。では、次に藤井委員、よろしくお願いします。

藤井委員：昨年８月に行われたコミュニティ・スクールフォーラムに参加した時に、私がいたテーブルでは、子どもたちから活発に意見が出ていました。例えば世界遺産についても話題になり、「海外から多くの人が来るので、ボランティアガイドをしたり、いろいろな国のパンフレットを作成してみたい」という声がありました。また、文化財課長の話にあったように、英語や中国語、韓国語での案内板を駅につくってみたりとかいう声も子どもたちの中から上がっていました。こういうふうに、実際に海外から来られることがあれば、交流する機会がたくさん持てるのではないかと思います。以上です。

市長：８月に津屋崎中学校で行われたコミュニティ・スクールでは、多くの生徒さんたちから提言や意見があったのが思い出されます。世界遺産に限らず、国際交流・グローバル人材の育成についても、質問や意見があればお願いします。

笠置委員：国際交流といえば、２０２０年に日本でオリンピックが行われます。それに限らず、子どもたちはとても世界を感じていると思います。

そこで、福津市に住む外国籍の皆さんや子どもたちについて、市としてどのように理解をしているだろうかと思って質問します。

旧福間町では、「まつりふくま」や、スポーツフェスタなどが行われており、子どもから大人まで幅広く参加できる行事でしたので、再びそういうものを取り入れたり、また、津屋崎小や勝浦小で行ってありました伝統的な山笠や獅子楽や人形浄瑠璃などを見て、触れればすばらしい交流になるのではないかと考えています。

市長：これについては、郷育推進課長に回答していただきます。

郷育推進課長：２０２０年東京オリンピック・パラリンピックが開催されます。これからスポーツに関する期待、それから機運といったものが盛り上がってくるものと思っています。

オリンピック・パラリンピックが開催されると言っても、ただ東京でやってることではよと思われなために、これを福津市の国際交流に結びつけようと考えたら、例えばホストタウン制度というか、取組が必要になってくるのかなと考えています。

また、キャンプ地として誘致をしたり、オリンピック・パラリンピアンとのスポーツ交流をしたり、オリンピック・パラリンピックへの参画という意味では、地域の人たちとの交流を深めようとする事業が考えられます。

これらは市としても、国際交流というものを果たせるいい機会になるのではないかと考えていますが、キャンプ地の誘致となると、スポーツ会場となる施設等が必要になってきます。現在、福津市には国際競技ができるような施設は当然ながら不足している状況で、あえて考えられるのは、立派な海があるということで、セーリングやトライアスロンなどで何らかの取組ができるかもしれません。

昨年10月にプリンセス駅伝を行いました。全国から29チームが参加しましたが、そのうち19チームは宗像市に宿泊しました。残りの10チームは宮若市、古賀市、それから北九州市に宿泊をしました。福津に宿泊したチームは一つもありません。このように、ハード面というか、何かおもてなしができるような環境が、現在は揃っていない中で、具体的な取組案としては、難しい問題をたくさん抱えています。

ただ、2年後にはオリンピック・パラリンピックが確実に行われますので、この機会をうまく捉えていきたいという思いはありますので、できるだけ前向きに検討を進めてまいりたいと考えております。

笠置委員：先ほど藤井委員も言われたコミュニティ・スクールフォーラムでも、子どもたちがオリンピック・パラリンピックのことを作文に書いて、外国にたくさんの子が目を向けておりますので、福津市の子どもたちのわくわく感をもっともっと引き出してくれるような福津市の良さをアピールして、何とかつくり上げていただきたいと思います。

市長：環境整備等の課題もいろいろありますが、このオリンピック・パラリンピックを機会に、教育での国際交流の場面を実現できればと私も思います。

下山委員：オリンピックなどに関連しての国際交流という話が出ていますが、福津市として現在、具体的に国際交流を過去からずっと取り組んできていると思いますが、その国際交流を担当している部署と、具体的にどのような取り組みをされているのかを教えてください。

総務部長：国際交流を担当しているのは、総務部広報秘書課国際交流係です。具体的な国際交流事業というのは実際行っていないのが現

状で、強いていえば、韓国の慶州市との民間交流でしょうか。春は福津市の会員が慶州市を訪問し、秋は慶州市から福津市に来られるという民間交流の支援を行っています。

それと、市長、副市長が、福岡のスペイン友好協会の特別会員になっていますので、その点で取組が若干あるのかなという具合です。国際交流事業としては乏しいものと思っておりますので、今後はインバウンドも含め、もっと力を入れていかないといけないと感じているところです。

下山委員：国際交流の具体的な内容がちょっと乏しいような印象を受けたのですが、その中で、現在福津市の小中学校で外国から入ってくる外国籍の子どもの数は年々増加していると思われます。外国籍の子どもたちが入ってくことで、在籍する児童、生徒にとって、異文化・多文化を学ぶいい機会がそこで生まれてくると思います。また、逆に、保護者も子どもも、日本語がまだまだ苦手な方の存在もあると聞いています。

そこで3点ほど質問しますが、現在外国籍の子どもは福津市に何人ぐらい在籍しているのか。2点目はその子どもたちに対する日本語教育がどのようになされているのか、それと、外国籍の保護者に対してのコミュニケーションツールとしての言葉をどのような形で教えようとしているのか。3点目は外国籍の方との交流するイベントといいますか、交流する機会が何か市として設定されているのかという3点をお願いします。

学校教育課長：まず、市内で日本語指導がなされている児童、生徒は13人おります。昨年と比べると3人増えており、増加の傾向にあるようです。外国籍の子どもが増えることで、日本の子どもたちにとっても、差別をしない教育だとか、国際教育だとか、あるいは多文化に触れるということ、学ぶ機会というのは増えることにはなると思います。併せて日本語の指導が必要となってきます。もちろん学習面もそうなのですが、生活習慣やさまざまな面で特別な支援が必要となってきます。

また、保護者への対応についても、日本語の文章理解や言葉によるコミュニケーションにおいて、通訳をする教員が必要となってきます。現状として、日本語指導に関しては、日本語指導のボランティアの方にすべてお願いしているというのが実情です。しかしながらボランティアの数にも限度があり、児童1人に対して、1週間に1時間程度の指導しかできておりません。今後もこういったニーズに対応した指導等支援をする日本語指導担当教員というのが必要となってくると思います。

福岡県教職員の基準内定数の中にも、日本語指導というものが、それを要求した経緯もあるのですが、現状としては配置してもらうのがなかなか困難です。

今後の取組として、日本語指導を充実させることは、今後ボランティアに頼ってばかりにいけないと思っております。市

として何らかの支援策を講じる必要があると思っております。
例えば、スクールソーシャルワーカーを充実させたり、市費の
加配職員を当てるなどの対策が必要であると思っております。

市長：イベントについても補足をお願いします。また、人数のことも
出ましたが、例えば市役所の窓口対応等については、いかがで
しょうか。

市民部長：窓口での対応の件ですが、福津市で現在348人の外国人が住
んでいます。この3年間で、100人以上増えています。世帯
数でいうと129世帯。やはりそれだけグローバル化が進んで
いるのかなと実感しています。国別でいうと、一番多いのは韓
国で90人、それから2番目は中国で52人。3番目がベトナム
で35人。次がフィリピンで32人です。その次がアフガニ
スタンで25人となっています。

また、窓口対応ですが、基本的には英語を話される方がかなり
多いです。役所の職員にも若干、英語で基本的なやりとりが
できる職員が何人かおられますので、できる範囲で対応していま
す。中国系の方については筆談をしています。漢字を書けばそれ
なりに意思疎通ができます。ただ、それ以外の言語になると、分
からない場合が多いです。例えばテレホンサービス等の
通訳サービスを利用して、ある程度の対応が窓口でできるよう
な体制をとっていきたいと考えています。

広報秘書課長：イベントということなのですが、福津市になってしばらくの間
までは、アジア太平洋こども会議で、小学校5～6年生の招聘
事業をずっとやってきておりましたが、平成21年頃だったと
記憶しておりますが、SARSが世界的に流行して、結果とし
て福津市も中止したという経緯があります。それ以降はアジア
太平洋こども会議の招聘事務をやっておりませんので、国際交
流事業は今現在はありません。日韓慶福交流会とスペイン
友好協会、この2つしか今のところ行ってないということにな
ろうかと思えます。

下山委員：子どもにとってはいろんな支援がたくさん受けられると思うの
です。子どもたち同士、学校の中、教室の中で困っている子ど
もに対して、言葉をお互い覚え合ったりというような感じで、
言わば遊びの延長線で言葉を少しずつ身につけていくのだらう
と思います。例えば韓国の子どもが来たら、日本語を教えたり
韓国語を教えてもらったりという交流は、一番身近なところで
子どもたちはすると思うのです。ところが、保護者とはとい
うと、なかなか難しいようです。地域に入ってきて、積極的にコ
ミュニケーションを図ろうとする保護者なら、地域の人との会
話で覚えていくことができるかもしれませんが、大人の社会で
はまだ難しいのではないかなと思うのです。そこで、例え
ば、郷づくりを利用するか、公民館を利用して、その国の料
理をつくって交流したり、音楽を通してコミュニケーションを

取り合ったりして、気持ちが和むような取組があるといいのかなと思いましたので、提案させていただきます。

市長：貴重な御提案をありがとうございます。本市が進めている郷づくり等を利用して、具体的には料理教室や音楽交流をという御提案です。

リチャリーというペルー出身の音楽バンドグループがいるのですが、昨年5月に市長室に訪問してくださり、生演奏を聞いたときには本当に素晴らしかったです。福岡県と言わず、九州全域で音楽交流もされているのですが、福津市でも子どもたちや地域でのこういう音楽交流も可能ではないかと思いました。

また、特に介護施設等では、フィリピンやベトナム等からも介護職の職員の受け入れを積極的に行っている施設もあります。こういう方が料理教室を通して交流を図るということは大変重要ではないかと私自身思いました。その他、国際交流について、ご意見はありませんか。

笠置委員：下山委員もおっしゃいましたが、福津市にいる外国の方々から学ぶことも大変多くあると思います。その方々が福津市に住んでよかったという環境を整えていくことも大切なのではないかなと思います。また、これから先は、よりよい国際交流の事業をするために、それを担当する環境整備が絶対に必要になるのではないかなと思いますが、市長の御意見をお聞きしたいと思います。

市長：国際交流は現在もあるのですが、旧津屋崎町、福間町の頃は交流はなされていました。ところが福津市となって以来、どちらかというと、時代が逆行しているというか、なかなか活発化していない本市の体制もあり、何かもっと国際交流を担える、そういった組織体制なりの設置は今後必要だと思います。教育部門だけでなく、この国際交流を通じて、本市の、例えば歳入アップになるというか、税収アップになるというか、そういったことも、もしかしたら、商工部門等のほうで、どうかしてこの国際交流を持つことも考えられますし、いろいろこれからの国際交流というのはどういった体制が一番望ましいのかということも含めて、検討していかないといけない課題だと思っております。

笠置委員：国際交流の進め方は、これからの国際化が進むといったような厳しい社会の中で子どもたちがたくましく生き抜いていくために必要な力だと思います。その力をつけるために、グローバル人材育成の必要性が言われていますが、世界や社会の中で多様な人々とかかわる中でさまざまな価値観を受け入れ、自分の考えをもち、表現したり発信したりする力を身につけていってほしいと願っております。そのために、私たち大人は子どもたちのさまざまな交流や体験の中で感性を磨ける場をつくったり、自分の意見、考えを表現できる場を多くつくったりしていく必

要性があると思います。そのために、学校や教育部だけでなく、地域社会や市長部局においても、子どもたちや市民育成の場をつくり出していただきたいと思います。よろしくお願いいたします。

市長：ありがとうございました。

下山委員：国際交流は、外国に行くだけではなく、国内で取り組める身近な取組でも、子どもの人材育成につながっていると思います。これが5年後、10年後、20年後の福津市の市民を育てるという意味では、できるだけ、手を携えて支えていくというところをしっかりとやっていただいて、他者理解、多文化理解、やっぱりパラリンピックからすると、障がい者のスポーツ祭典から障がい者を理解し、それから人権教育につながることを学ばせる大きな機会として今後もとらえていけたらというふうに思います。

市長：ありがとうございました。

この国際交流がダイバーシティということもありますが、多様性、そして障がい者の理解や人権教育にもつなげていくということでの必要性ということでの御提言だと感じております。その辺りもしっかり踏まえていきながら、今後策定していく計画の中でも盛り込んでいければと思っています。

最後は冒頭でも申しましたが、副市長、教育長からもまとめの御意見もいただくことになっておりますので、時間の関係上もあり、次の環境保全のテーマに進めさせていただきます。

②環境保全を進めるための人材育成について

市長：それでは、次に自然環境保全をテーマに協議を進めていきます。この自然環境保全についても、子どもから大人までの生涯学習の観点からも、子どもたちも含め全市民で進めていきたいと思っています。

福津市では、第2次福津市環境基本計画というのが、今年度からスタートしております。その実現に向けて、環境保全だけでなく、人材育成の観点からも子どもも大人も学び続け、この福津の本当にすばらしい自然の保全を行っていきたいと考えています。福津市が自然豊かなまちであり続けるために、ぜひ自然環境の保全を進めていきたいと考えておりますが、教育委員の皆さまのお考えはいかがでしょうか。

下山委員：郷育カレッジなどで、自然環境を学ぶ講座や活動の場というのはどのようなものがあるのでしょうか。

郷育推進課長：郷育カレッジは、平成29年で15年目を迎えました。毎年100ほどの講座を用意していますが、郷育カレッジ運営委員会の中で、次年度のカリキュラムを検討していきます

まずは「ふるさと」「健康福祉」「環境」「生きがい」をメ

インにカリキュラムを組みますので、環境については、おおむね全体の2割程度が組まれております。特に福津市では、豊かな海、そして、津屋崎干潟、西郷川、それから山もあります。

自然には本当に恵まれております。そこで、例えば海を舞台としたカリキュラムであれば、29年度は、未来を担う子どもと一緒に学ぼうというテーマで、小学生、中学生、高校生が講師となったり、あるいはこの中学生、高校生と一緒に体験したりという講座が組まれております。

特に、光陵高校では「うみがめクラブとわくわく生き物教室」、水産高校では「豊かな海づくりプロジェクト」が行われています。福津市に住む生き物について、高校生が中心となって受講生にしっかりと伝わるように教えていこうという活動です。水産高校では「豊かな海づくり」ということで、森を豊かにすることで海も豊かになるという観点から、竹林を整備して海を豊かにしていくという活動を高校生がやっていますので、受講生も一緒に参加するというものです。

ちょっと残念なのが、受講生は大人ばかりで、中学生や小学生に教えるという姿が見られません。これは、次年度以降の課題かなと考えております。小学生の子どもたちが夏休みなどにこういった環境保護、ふるさと福津の環境を学ぶという場を設けていきたいと考えております。

下山委員：各小中学校でも、自然環境保全について学習していると聞いております。特に中学校では、海岸清掃を中心とした全校生徒規模の活動が毎年行われているとも聞いております。ただ、その中で、どうしても自然環境保全が単なる清掃ボランティアというところで終わっている状況もあるのではないかと懸念をしております。せっかく光陵高校、水産高校の生徒が活動している。それから、大人が環境について学んだプログラムもある。それを小中学生につなげていくことも大事なことでないかと思っています。

子どもは子どもで環境保全をするのであって、福津市民としてみんなですべてを共通項としてもっていくのも大切なことかなと思います。

子どもたちにも環境についてさらに具体的なものを学ぶ場を提供できたらいいと思うのですが、現在、福津市が最も力を入れて取り組んでいる自然環境保全というものは、どのような活動や内容がありますか。

地域振興部長：本市の環境行政、環境全般に関しては、地域振興部うみがめ課が所管をしておりますので、私が少し説明します。

市は平成29年3月に、第2次福津市環境基本計画を策定しました。第1部は環境基本計画ですが、第2部として、生物多様性福津プランというものを策定しております。これが、いわゆる自然環境保全というふうにつながるわけですが、この生物

多様性プランについては、福津市に生息する多種多様な生き物と、生息、生育地の環境保全に重点的に取り組み、持続可能な地域づくりを実現するための指針と位置づけており、これに基づいて、今後さらに自然環境の保全に努めていこうと考えております。先ほど、中学校の環境保全ボランティアの紹介もありましたが、これらも含めて取り組んでいきたいと考えております。

市長：それでは、学校教育課からもお願いします。

吉住参事：先ほど、下山委員から小中学生の清掃活動の充実のことを伝えていただきましたが、確かに学校では毎年、福間海岸の海岸清掃や全校生徒による松林清掃というのが、津屋崎中も福間中も、地域とつながって本当に充実してきていますが、ただ単に清掃隊としてのマンパワー、活動力が欲しいのではなく、学び続ける市民の一員として育てたいという思いがあります。

ふるさと学習副読本というものをつくろうとしています。これは、福津市の歴史文化の他に、環境教育の分野も含めて、子どもたちが環境について学び、そして学んだことを実際に地域に還元できるようにというふうに考えて、小学3年生は干潟、中学1年生では地域の環境問題について、考え、見つけて、そして考えて活動に移すというカリキュラムです。

先生方とこの副読本を作成していく中で、市が進める環境計画を、中学生でも理解ができるように、行政職員や地域の皆さんが学校に来て、話をしてくだされればいいなという意見も出ていました。

下山委員：今までの話は、ほとんどが海沿いの話が中心となっていました。私は、田畑や山林の保全がどのようにされているのかというところもちょっと危惧するところがあります。農家の方々の年齢がだんだんと高齢化して、それを継ぐ若い世代がだんだん減っていく。継ぐ人がいなければ、田畑は荒れる。山林も荒れる。それが放置されたら、せっかくの福津市の自然環境が崩れていってしまう。

工夫すれば、自然環境をそのまま保ちながら、それが働く場を生み出す場所にもなるような気がするし、雇用もまた増えるのではないかとも思うのです。そこで、田畑や山林についても、市としてはどのように考えているのかお尋ねします。

市長：雇用につなげるというご意見です。田畑の担い手や就農支援や、耕作放棄地等の問題も関連する質問だと思います。地域振興部長、お願いします。

地域振興部長：耕作放棄地や農業、漁業については、地域振興部地域振興課が所管をしております。いま御指摘のとおり、農業従事者の高齢化それから、休業等が年々増えていき、それに伴って農地が荒廃していくという状況は、福津市に限らず、全国的な課題となっています。ちなみに、福津市内の全農地面積は1, 200

ヘクタールほどあります。これは平成２７年度調査のもので、そのうち１１７ヘクタールが荒廃地となっております。これについては、全国的な課題になっておりますので、国を挙げて取り組む事業として、農業多面的機能事業というのがあり、いわゆる国、県の補助事業ですが、これを活用して、市内では自治会単位の組織で、そういった農地を守る組織を立ち上げていきたいとして、今市内に１２組織あります。そういったところに国・県の補助金を交付しながら、耕作放棄地の減少を図っています。

また、農地の集約、集積事業というものがあります。これは宗像市とＪＡと共同で立ち上げております地域農業活性化機構が、県の中間管理機構とタイアップして、できるだけ耕作放棄地が出ないように、大規模農家にこの放棄地を管理いただき、荒廃農地を減らしていこうとする事業にも取り組んでおります。耕作しにくい農地もある中で、大きな課題はまだ抱えておりますが、各方面と連携しながら、今後も自然環境保護に努めてまいりたいと考えております。以上です。

市長：環境保全ということで、農業施策、農政施策の展開を紹介しました。このテーマにつきまして、御意見はありませんか。

青木委員：それぞれの郷づくりにおいて、環境景観部会等で環境保全の活動をされているということですが、高齢者が多く、活動に困っていると伺っています。各郷づくりにおいて、環境保全について若い方の学びの場などはつくられているのかということについて、お尋ねします。

それともう一つ質問ですが、郷育カレッジの講座で２割ぐらいが環境問題について開かれていると言われましたが、受講者はどれぐらいいますか。

市長：郷育カレッジの受講者と、この環境保全活動等の高齢化についての対応等の質問ということです。

郷育推進課長：郷育カレッジの受講者はおおむね１００ほどある講座のうちの２割程度が環境問題、環境関連だと申し上げましたが、１講座あたり定員が約２０～３０人程度ですから、年間あたり約４００～５００人になるかと思っております。受講者の年代は大体６０～７０代が多く、３０～４０代というような、就労している方々というのは、郷育カレッジをはじめ、生涯学習関連には参加していないというのが現状です。以上です。

青木委員：おおよそ定員いっぱいの申込みがあるのでしょうか。

郷育推進課長：ほとんどの講座が多くなり過ぎて、お断りしないといけないくらいのところが多いようです。

青木委員：それだけ申し込みがあるということは、何か心強いというか、皆さん興味をお持ちであることがわかって、ちょっと安心しました。

市長：次に、郷づくり推進課の石井係長からお願いします。

郷づくり支援係長：郷づくりの環境分野について高齢化しているということですが、環境部会に限らず、高齢化が進んでいます。郷づくりはもう10年経っておりますので、当時60代であった方が今70代になっているということで高齢化しているのと、新たに入ってくる方が少ないということが主な要因に考えられます。

郷づくりは環境以外に、子育てとか福祉とか、防犯・防災など4つの分野がありますが、どれも次の世代がいないと。つまり、課題として一番多いのは担い手が少ないということでした。その中で特に、環境景観部会が少ないということで、そういった中で、やはり新規活動者のターゲットは若い方だろうということになります。若い方と言ってもどういう世代になるかということになりますが、現在、郷づくりでやっているのが、親の世代と子どもの世代が、一緒に参加できるような体験活動、例えば生き物観察とか、芋植えとかそういった活動、つまり、活動を通じて地域の環境保全に関心をもってもらおうということです。それと、親の世代と一緒に参加することによって、親にもそういった関心を高めてもらうということがまず1点です。

もう一つの分野としては、松林保全というのがあります。当然海に近い地域と限定的になりますが、福間、津屋崎、宮司の3地域で小中学校の児童・生徒さんを受け入れて、体験活動を学校活動の一環で、環境保全の取り組みの支援をしています。具体的には、年2回、福間地域で全校生徒を挙げてされていたり、また、津屋崎地域では年1回、全校でかかわっていたりといった具合です。宮司地域にも津屋崎中学校から宮司出身の子どもたちが参加しており、また、津屋崎小学校は卒業記念として、宮司と津屋崎に自分たちで植樹をするという取組もされております。そのほか、花壇の整備等々、いろんな地域での、学校活動というものもあります。

郷づくりの中の学びの場ということで紹介しましたが、この学びの場があれば少しでも理解者が増えるのではないかという観点だと思うのですが、今あるのは、そういった子どもと保護者の参加を想定したような場と、もう一つは小・中学校から参加していただいて、それを受け入れる場という2点で学びの場というのが、既に展開されています。これからは、さらに推進していけるように、市としても人材育成、情報発信の支援をしていかなければいけないと考えております。以上です。

青木委員：学校で子どもたちも環境教育というのは進めているということなので、学校と地域、そして郷づくりも連携して、郷づくりの方々が学校の行事と協働して活動されることによって、保護者や地域に住む人の顔が見えてくると思いますので、そういうときに郷づくりの存在というか、どういう活動しているのかということ、親の世代にも知ってもらうことによって、賛同する

人も増えてくるのではないかと思います。

もう一つは、学校で環境教育を進めていく中で、先生方の負担がますます増えないように、新しい取組を進めていただければというふうに思いました。以上です。

市長：御提言ありがとうございました。

藤井委員：先日イオンモール福津で環境フォーラムが行われたようですが、市民の環境への意識が高まったと思われますか。また、子どもたちの参加がどのくらいあったのか、お聞かせください。

地域振興部長：先日開催した環境フォーラムについては、合併以来ずっと行っており、ここ3年ぐらいはイオンモール福津で行っております。地球環境問題の啓発だとか、地域での取組や環境に優しい取組の紹介だとか、さまざまな団体との共働を目的に、年1回開催しています。今年度は12月16日の土曜日に、福津市の豊かな自然環境をテーマに開催しました。イオンモール福津で行っているということもあり、たくさんの参加がありました。ただ、参加した子どもたちのカウントまではできていませんが、およそ2～3割程度ではないかと報告を受けております。特に親子連れが多く、例えば、モマ笛の絵づけとか、いろんな体験イベントを行って、にぎわっていました。それと、地元の光陵高校と水産高校の学生ボランティアの方々にはたくさん協力をいただきました。光陵高校のうみがめクラブからは、里山をテーマにしたポスターの展示であるとか、カスミサンショウウオの実物展示、また、水産高校は、竹の魚礁の実物展示や取組の発表、それから「浮き守り」づくりの体験などが行われております。

来場者の方から、「高校生ボランティアがすごく新鮮でいい存在だ」と、うれしい御意見をいただきました。以上です。

藤井委員：参加がとても多くて、また、親子連れが多いということで本当に喜ばしいことだと思います。また、今後もこういった市民が学べる場が広がるようになると思います。人と人がつながり、環境の課題について学ぶ活動につながる場になることを願っています。ありがとうございました。

市長：環境教育のテーマで環境保全として進めておりますが、その他、御意見や御質問があればお願いします。

今、福津市では、福津市総合計画を策定しております。今日は担当理事も出席しておりますし、本日の協議内容を踏まえて、総合計画を策定する観点から意見があればお願いします。

行政経営企画課：総合計画策定についてですが、第1次総合計画のもと、それまで危惧されていた人口減少や自主財源の不足を乗り越え、さまざまな施策、事業が実行され、福津市は今の発展を手にすることができたと思っております。そして、これからの新しい福津市の未来を描く、第2次総合計画の策定に当たっては、過去をしっかりと検証し、そして、市民の皆さんが総合計画に関心

をもっていただけるように、市民アンケートや無作為抽出で御参加いただいた市民会議、そして、公募による市民ワークショップ「ふくつ未来会議」などを開催させていただいております。市民参画のもと、市が目指すべき将来像をつくり上げているところです。ちなみに、ふくつ未来会議においては、市内の中学生や高校生にも参加をいただき、多くの意見やアイデアをいただいております。本日、国際交流、環境保全などグローバルな人材の育成について貴重な御意見をいただいたと思っております。今後の総合計画策定に当たっての判断材料とさせていただきたいと思っております。市総合計画は、審議会で審議いただきながら、平成30年度の策定を目指しておりますが、当然ながら、策定することだけが目的ではありません。施策、事業の評価を行政内部で検証するだけではなく、市民の皆さんの視点で検証できるような指標も設定して、市民の皆さんによる検証が行えるような仕組みづくり、そして、市民との対話を重視した進行管理など、しっかりと行政経営が行えるような計画にしたいと思っております。以上です。

市長：市総合計画の視点から、これも策定のプロセスを踏んでおりますが、その経過を踏まえて状況報告をしていただきました。これを踏まえて教育総合計画を策定していきます。

今日の協議も踏まえまして、教育長からまとめをいただければと思います。

柴田教育長：今日はいろんな御意見をいただき、ありがとうございました。それから、各市長部局からいろいろな情報もいただき、本当にありがとうございました。前回の会議で、私はいろんな教育課題があるものの、やはり子どもたちに新たな体験で、新たな人との出会いの場を提供すると申し上げました。要するに、子どもの成長はカルチャーショックの繰り返しの中で成長するのではないかと思っているので、どういったカルチャーショックを与えていくかという思いがあるわけです。

本市の福津市教育ドリームプランでは、「夢や希望をもち、健やかに育つ子どもの育成」を我々は推進していかなければいけないし、平成30年の4月には、市長を中心とした教育大綱にある「福津を愛し、人とのかかわりを大切にし、未来に向けて学び続ける人づくり、まちづくり」が基本理念ということになります。

先ほどから協議されている国際交流活動、環境保全活動が、そういった人を育てるための手段であると私は考えています。具体的な手段は皆さんの知恵を借りながら教育委員会で活動をしていかなければいけないと思っていますのですが、今の日本の子どもたちは、あるデータによると、内向的で、安定志向型、それから、社会や人へのかかわりにはあまり関心をもたないというのが、我々が捉えている現在の子どもの姿なのです。それ

を、いろいろな方法で解きほぐし、夢や希望をもつ子ども、あるいは未来に向けて学び続ける子ども、こういった子どもに育てていかなければいけないと思っております。

子どもの成長に関しては、筑波大の門脇教授によると、社会力の育成が非常に大事だと言います。この社会力というのは、人と人がつながり社会をつくる力で、いわゆる、この社会力を総合的な学力の育成だと、門脇先生もおっしゃっています。社会力を身につけると、総合的な学力も身についてくるというのです。

総合的な学力というのは、学び力とか、あるいは課題発見、課題解決能力、あるいは、コミュニケーション能力、そして体力。こういったものを、ただ単にテストの点数をとるというのではなく、いわゆる社会力を育てれば、総合的な学力は育つと。これはひいては生きる力が身についているといえます。この社会力を育成するために、環境保全活動、あるいは国際交流活動で、どうやって子どもを育てるかというのが課題になると思い、今日はいろんな御提案、御提言いただきましたことを感謝して、それをまとめて実際の教育活動に結びつけていきたいと思っております。

やはり大事なものは、学校の取り組む姿勢というか、校長の姿勢をどう持たせるかとか、あるいは、教師力の育成というか、実際に子どもの教育にかかわるこの教師をどのように育成していくかというのは、教育委員会の課題だと思っています。

行政や地域の後押しが必要であることはもちろんですが、そういった学校の教育活動を、地域に理解をしていただき、地域の後押しをいただくというような、学校・地域協働型のスタイルを福津市でできたらいいなと考えているところです。

今日も、いくつか学校の話も出ました。グローバル人材、国際交流については副市長から、いろんなアドバイスをいただけるのではないかと思います。現在、勝浦小だけが特別認可制度をやっておりますが、上西郷小がそれをやるとすると、例えばイングリッシュスクール上西郷のように、英語の学力をつけるなど、何かキャッチコピーなどがあってもいいのかなとも思っています。それには当然予算も伴うわけです。

あるいは、福間中学校は去年、日本フィランソロピー協会から文部科学省表彰を受けました。それは、子どもたちが募金活動をやって、それで年賀状を買って、そして福津市の独居老人宅に年賀状を送る「福まねき年賀状大作戦」という慈善活動が認められたということで、そういった活動も膨らませながら、あるいは続けさせながら、今日の2つのテーマに迫ってきたと思うのですが、やはり教師力の育成が僕は大事だと思っています。

学校から出て行う活動は、結構あるのです。これは最も教師

が苦手としているところなのです。教師は教科書をもって、四角い教室に閉じ込めて、黒板と I C T で教える授業は結構得意なのですが、今日のテーマを学校の先生たちが実際、どのように子どもたちにぶつけていくかというのが、私としては、今から知恵を絞って、力をつけてやらなくてはいけないのかなというふうに思っています。

市長：貴重な提言でしたし、具体的な提言もありました。ありがとうございました。

それでは、今日のテーマについて、全体を通して、副市長からの今日の感想などをお願いします。

副市長：この1か月、まさに新たな体験と出会いでカルチャーショックです。今日のこの時間もたくさん成長しました。

大きくまとめると3つあるかなと思いました。

まず、国際交流・グローバル人材の育成については、内なる国際化の推進を進めないといけないと思いました。外国籍の人たちを、どうやってこの地域の中で受け入れるようにするかということも課題の一つです。

また、日本語の支援についても、例えば福津市は福岡女子大学と包括協定を結んでいます。福岡女子大学は日本語教師の育成のプログラムもあり、学生や院生の実習の場として来ていただくとか、そういうことも投げかけてみたいなと思います。

海外のお子さんが日本でホームステイをするというアジア太平洋子ども会議の事業について、実は私、このアジア太平洋子ども会議の事務局の支援を20年やっておりまして、アジアから子どもたちが来ているときに、福岡のキャンプに参加するとか、いろんなやり方もありますし、少しここは模索していきたいなと思いました。

2点目の環境保全ですが、福津市の第2次環境基本計画、これは本当に素晴らしいものが出来ています。国内でもとても珍しい生物多様性のプランがしっかりできており、この生態系から、私たち住民がこれだけの恩恵を受けているということを知りやすく書かれたプランは、他にあまりないと思うのです。これは学校での教科書ではなくとも、福津市民にとって、環境保全を学ぶ素晴らしい教科書になると思っています。これを家庭や学校や郷づくりで、どんどん使っていて、そして、地域を愛し、ほかの気持ちが生まれる、そういう環境保全教育ができる、まずは基盤ができたということが言えると思います。

3点目は、グローバル人材も、環境保全人材も、両方にかかわるのですが、子どもたちが自ら世界に発信する機会づくりを私たちがもっとしていかないといけないなと思いました。パンフレットやウェブ制作に子どもたちをかかわらせながら、そこを支援していくところに、大学生をどんどん巻き込んでいき

いなと思います。

環境面は、すでに九工大の学生さんたちが光陵高校や水産高校の生徒さんたちと一緒にやってくださっていますし、福教大の学生さんも巻き込んだりして、異世代を通して学ぶ上でも、このグローバルと環境保全というのは、とてもいいテーマだと思います。

今日たくさんのヒントをいただきましたので、それぞれの部門の皆さんと一緒に実行していきたいと思います。ありがとうございました。

市長：副市長、どうもありがとうございました。

それでは、もう予定の時刻は過ぎておりますので、間もなく閉じさせていただきますが、今日は、あっという間に時間が過ぎるぐらい、大変内容のある会議だったと思います。こういった総合教育会議が開かれて、教育部局と市長部局がしっかり検討しながら行う会議でありますので、今日のテーマを提言等を踏まえまして進めさせていただきたいと思っています。

福津市が合併して14年目に入りましたが、それ以前から、津屋崎町、福岡市からの環境保全であり、国際交流の歴史があり、また、現在もあります。例えば慶州との交流でしたら18年の歴史があり、スペインとの交流でしたら14年の歴史があるわけです。世界文化遺産でも、7月のことがクローズアップされてますが、11月には世界記憶遺産に朝鮮通信使が認定されて、江戸時代はこの津屋崎が朝鮮通信使とのかかわりをもった場所であり、11月には大きく新聞にも載りました。福岡スペイン友好協会については、12月は副市長と一緒に出席しましたが、福津市民の方が多く、私どもが参加しますと大歓迎です。今年の3月にも招待を受けています。スペイン福岡友好協会のイベントもあります。このように、これまで地道でありましたが、培ってきたこの国際交流についても、もう一度考えていきたいと思っています。

環境保全のことについては、これを進めていただきたいし、前回の総合教育会議で教育委員の皆さんに、この第2次福津市環境基本計画は配付させていただいておりますので、今日の副市長のまとめの意見とも一致するなと思いました。そして、農政部門からの環境保全というのは、ただの環境保全ではなく、福津市ならではの環境や、農産物、海産物も含め、しっかり生かしていきながら、第1次産業の活性のためにも進めていただきたいと思っています。2月の広報誌の特集は里山保全や干潟保全の特集と聞いておりますし、福津市はこれから、この2つのテーマで、エッジの効いた基本計画をつくっていただきたいと思っていますところなんです。

今日は、非常に活発な意見交換になりました。それでは、事務局のほうに進行をお渡ししたいと思います。

4 その他

川崎：それでは、次第の4番目「その他」ということで、事務局から何か連絡事項があればお願いします。

5 閉会の宣言

川崎：今年度の総合教育会議は本日が最後とさせていただきたいと思っております。来年度の開催期日については、また、後日、日程調整させていただきます。

以上をもちまして、平成29年度第3回総合教育会議を終了いたします。

本日はどうもありがとうございました。

【以上】